

水戸市河和田町 いばらき保健福祉友の会

「高齢者の住宅改修は給付が受けられるんですよ」「そうなんですか！」…お茶とお菓子をいただきながら和やかに進む、在宅介護をしている介護者の交流の会『たまり場・やまゆり』でのワンシーンです。

「たまり場」とは、住み慣れた地域で、みんなの助けを借りて、誇り高く生きるために』を合言葉に、地域の方が気軽に喋りできる“場”をつくる活動です。友の会会員の方が主宰者となり、事務局が会場を借り受け、会場の管理・利用の窓口になって活動を行なっています」とは、今回ご紹介する『いばらき保健福祉友の会』、事務局の川崎さん。

「最初の“たまり場”ができたのは、2008年のこと

です。友の会では以前より、会員さんの高齢化に伴って、会員さんに何をしてあげられるのか、という話が出ていました。また

同時に、地域ごとに会員さんの班を作りたい、という考えもあったんです。そして、2007年に行なわれた友の会会員の集いで、茨城大学の長谷川幸介先生を講師に迎えた講演会で“生活の場で生き抜くネットワーク作りが今後問題となる”という問題提起を受け、それらが総合的にまとまり“たまり場”構想へと発展していきました。そこで友の会は、会員向けの機関紙などを通じて“たまり場”作りを会員へ呼びかけます。それに最初に応えたのは、一人暮らしの年配の女性でした。「遠くにお嫁に行った娘さんの後押しもあって、

自宅の一室を“たまり場”として提供することに同意してくれたんです。今後のことも考え、近所の方々とお喋りできる

場があればそれをきっかけにお付き合いも深まるから、ということでした。そのようにして、たまり場は増えていきますが、全てが順調という訳ではありませんでした。「知らない人が家の中を出入りすることにご家族が難色を示し、やっぱり出来ません…となってしまうケースも多々ありました。今ある“たまり場”はそれらを乗り越えて来たものなんです」。

現在は、水戸市内に7ヶ所の“たまり場”があります。「今後は“たまり場”を増やすことより一つひとつを充実させ、今まで裏方であり存在感を示してこなかった友の会の存在感をもう少し出していけたら、と考えています」と川崎さん。会員さんと共に、新たな一步を歩みだそうとしている、いばらき保健福祉友の会です。



いばらきの社会福祉

Social Welfare of Ibaraki



環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています

発行者

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

〒310-0586 水戸市千波町1918

TEL.029(241)1133(代) FAX.029(241)1434

<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/>

E-mail ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp



携帯電話で読み取るだけで
簡単に「茨城県社協HP」に
アクセスできます